

突然の心停止

見 本



SCAとも呼ばれますが、突然の心停止は、何の前ふれもなく発生することがあります。アメリカでは、心疾患が成人の死因の上位を占めており、日本でも3大死因の一つです。

突然の心停止は、心臓の普通の電気活動に予期せぬ乱れが生じた時に起こります。心臓の調整の取れた機械的な収縮が止まると、心室細動と呼ばれる、秩序のない細かく震えるだけの状態が生じます。

これにより脳や体に流れる血流が突然止まります。脳に血液と酸素が供給されないと、人はすぐに倒れ、意識を失い、呼吸が止まってしまいます。

脳は酸欠に特に敏感です。酸素が供給されないと、脳の組織は数分の内に死に至ることがあります。居合わせた人が早い内に気づいて手当てをしなければ、助かりません。

突然の心停止の原因

- 心臓の病気
- 感電
- 重度の失血
- 薬物の過剰摂取
- 激しいアレルギー反応
- 溺水

AED を使う

スキルシート 8

見 本



CPR を実施する

- 意識不明で呼吸をしていない人には、即座に CPR を行います。
- 胸部圧迫 30 回とレスキュー呼吸 2 回のサイクルを続けて提供します。



あるなら、AED を装着する

- AED の電源を入れ、胸を裸にする。
- 最初のパッドを台紙からはがし、右の鎖骨の下で乳首より上、胸骨横に貼る。
- 2 番目のパッドは左側肋骨の上、脇の下側に貼る。



AED が指示したら、除細動を行う

- AED に心拍を解析させる。すべての動きを停止する。
- ショックの指示が出たら、周囲の人々に離れてもらい、ボタンを押してショックを行う。
- ショックの指示がない場合は、胸部圧迫から始める CPR を即座に再開する。



CPR の再開

- 胸部圧迫から始まる CPR を素早く再開する。AED からのその後の指示に従って行動する。
- 他の救助者が救急隊に引き継ぐまで続ける。
- 反応があったら、CPR を停止し、回復体位にする。AED は装着したままにしておく。

のうそっちゅう 脳卒中

見 本

脳卒中は脳の一部への血流が突然中断して発生します。血の塊が血管に詰まった時に発生するのが最も一般的ですが、動脈瘤として知られる、血管のもろくなった部分が破れて周辺の脳の組織に出血した時にも起こります。いずれの場合も、脳細胞が死んでしまいます。

脳卒中の兆候は様々ですが、突然発生する傾向があります。

- 顔や腕、脚など、特に体の片側に、しびれや脱力が突然生じる。
- 混乱して見えることがある。
- 話す能力や理解力に変化が生じる。
- 視力や体の均衡に影響が出る。
- 突然の激しい頭痛を訴える。



脳卒中は予断を許さない緊急事態です。疑いがあるなら、即座に救急隊を呼びます。発生するかもしれないダメージを最小限にするには、病院での手当てが不可欠です。

脳卒中を起こしている人は、動くことも明確に伝達することもできないのでかなりのストレス下にあります。混乱しているかを見ても、何が起きているか分かっていることもあります。救急隊の到着まで、落ち着かせ、なぐさめ、安心させてください。飲食は一切させないでください。

脳卒中の疑いがある場合には、突然の心停止に備え、CPRとAEDの必要性に備えてください。

脳卒中の評価

脳卒中かどうかを素早く判断する方法は、疑いのある人に以下のことをしてもらうことです：

- 笑う
- 両腕をあげる
- 簡単な話をする

こうしたことがうまくできないようなら、脳卒中が発生している可能性があります。